

静岡県教育委員会
教育広報紙

発行・編集 教育政策課 〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号 TEL 054-221-3674 FAX 054-221-3561 E-mail kyoui_seisaku@pref.shizuoka.lg.jp

自立し、互いに関わり合いながら、よりよい社会づくりに参画し行動する「有徳の人」の育成を目指して

Eジャーナルしずおか

令和6年(2024年)
6月5日
水曜日
第272号

新たなカフェが校内にOPEN!

令和4年度から静岡中央高校で試行してきた校内居場所カフェ事業が、令和5年度から三島長陵高校、浜松大平台高校でもスタートしました。校内居場所カフェとは、生徒が気軽に立ち寄り、大学生や地域の社会人などのボランティアスタッフと交流ができる場所です。今年度も引き続きNPO法人等に委託し、3校で実施していきます!

3つのカフェを紹介します

1

きやりこみゅカフェ
(静岡中央高校)

静岡中央高校では、「高校生が社会とつながるプラットフォーム」を目指し、毎週のカフェの運営に加えて、働く経験を積むインターンシップコーディネートや自分達でカフェのアイデアを出して楽しむ空間づくり、食べ物配布等の生活支援につながる取り組みを実施しています。

インターンシップでは、夏休み期間中に図書館や老人ホーム、NPO法人などで、職業体験を実施しました。参加した生徒からは「将来を考えるための参考になった。」などの感想がありました。

2

きやりこみゅカフェ
(浜松大平台高校)

浜松大平台高校では、令和5年9月からカフェをスタートしました。参加者数は回を重ねるごとに増え、友達を誘って参加してくれる生徒もいます。学校やアルバイトでの悩みや将来のことなど、ボードゲームをしたり、お菓子を食べたりしながら話しました。

最後のカフェでは、「4月からもカフェやる?」「また来るね。」「学校を辞めないようにしないといかんね。」など様々な反応がありました。どの生徒も笑顔でスタッフと会話する様子から、カフェが安心して過ごせる場所になっている様子がうかがえました。

3

ほっとカフェ
(三島長陵高校)

三島長陵高校では、パステルアート体験をしながら学校生活や将来について話をしました。アルバイトをしている生徒は、仕事の困り感などについて相談していました。

冬休み前には、カフェの案内カード、年末年始に困ったときに相談できる窓口のチラシ、食品などを配布しました。「いつもありがとう」「良いお年を!」と生徒とサポーターが声を掛け合いました。



校内にある社会とつながる場所

これから...



食べることがままならず、学校で学ぶことやアルバイトをすることができなくて困っている生徒がいる場合、まずは生活を整えるためのサポートを、行政、支援機関が連携して広域的に行う必要があります。

働くことのイメージが持てない生徒には、職場見学や就労体験ができるように、学校と連携して進めていきます。生徒やご家庭とつながり、高校を卒業しても、安心できるセーフティーネットづくりを目指しています。

今と卒業後に向けた
人間関係づくり

【高校教育課】

実践NOTE⁵⁴²

特別支援学級の学級編制基準引下げによる教育効果を期待して

伊豆の国市立大仁小学校 教諭 前田 朗子

8名1学級を2学級へ

特別支援学級への理解が進み、支援学級は年々増加しています。併せて、障害が多様化し、より個に応じた支援を目指すために、多人数学級における指導は困難を極めるケースが多く見られます。そこで、研究指定校として加配教員を配置し、8名を2学級に分け、その教育効果を検証していきま



2年生から6年生まで8名の教室

学習環境の充実

まず、担任の受け持ちが4学年から2学年に減ったことで、児童が直接担任から受けられる指導時間は国語・算数で平均1.8倍増加し、自習時間が減りました。単学年授業は0時間から11時間に増え、異学年異教科授業が18時間から5時間までに減ったことで、児童・教師共に集中できる授業時間が大幅に確保されました。また、空間が広くなることで、パーソナルスペースを保ちながら、活動に合わせた教室レイアウトが可能になりました。物理的にも心理的にも児童同士の注意や注目行動が減ったことは、障害特性を持ちながらも生活を充実させる一助になったと考えます。



電子黒板がお気に入り

予想をくつがえされた児童アンケート

実際には、8名が1学級として学習や生活をする場面があるため、定期的に児童の意識調査をしていきました。「少人数(2学級)が良い」は18ポイントから21ポイントまで上がり、予想通り始めから高ポイントを獲得しました。しかし、「多人数(1学級)が良い」も12ポイントから20ポイントまで上がり、「多人数は低評価が続く」という私の予想はくつがえされました。これは、少人数学級で学習や生活環境を安定させられたことが好転し多人数でも良好な関係を築いていくことができた、と分析しました。



広い空間をパーティションでレイアウト

少人数での成功体験を通常学級へ

自閉症児はコミュニケーションに課題があると言われていますが、友達と上手に関わる体験を通して、人とのつながりをさらに求めていることが分かりました。小集団の生活から始めて、集団登校班や縦割り班、通常学級へと人間関係が広がっていくことが期待されます。出席率96.7%が表すように、何より楽しく学校へ登校できることを願っています。



自分のお気に入りの遊びですぐ休み時間

実践NOTE⁵⁴³

美術を専門的に学ぼうとする態度を形成する「美術概論」

- 作品交流を通した創造性を考える授業実践 - 静岡県立清水南高等学校 教諭 竹川 友美子

美術を専門的に学ぶ生徒は、美術概論、美術史、鑑賞研究、素描、構成の5科目を原則、履修しなければなりません。その中で、基盤となるのが「美術概論」です。将来、芸術家、デザイナーなど美術分野のプロフェッショナルを目指す生徒たちの核となる重要な科目です。

今回は、美術概論で実施した「自己や他者の作品に表れている創造性を考える授業実践」として、清水特別支援学校との芸術交流活動を紹介します。



清水特別支援学校との芸術交流

清水特別支援学校と本校芸術科は数年にわたり芸術を通した交流活動を続けています。本校の音楽専攻生が、清水特別支援学校で演奏したり、美術専攻生の作品を校内に展示していただいたりしてきました。

創造することの価値と、多様な作品に表れている創造性を尊重する態度の形成

令和5年度は、互いの作品を交換し、作品交流展を両校で実施することができました。清水特別支援学校の児童・生徒の作品は、版画、イラスト、木工作品など多岐にわたり、技法も多様です。普段、美術館で有名アーティストの作品や大学受験のために制作された作品などを目にすることが多かった美術専攻生にとって、初めての体験です。

交流展の前に、「作品自体に価値があるのか?有名な作者が描いたことに価値があるのか?」ということについて生徒と共通理解を図り、展示、鑑賞で完了するのではなく、次のように進めることとしました。

- ①他者に自己の作品をより深く知ってもらうために、作品や技法・材料について紹介するパネルを作成する。
- ②相手校の作品について感想シートを送る。



①紹介パネル



②本校美術専攻生の感想シート

美術の意義等についての生徒の考えの深まり

生徒の感想シートは、自分にはできない表現に出会ったことによる驚きや発見で溢れていました。また、相手校から届けられた展示の様子の写真や感想シートは、他者の目から見た自分の作品の評価や価値について再認識できる良い機会となりました。

美術の創造活動が多様化する今日、生徒自らがその意義について考えを深めていくことは重要です。今後も、その様な機会を多く設定していきたいと考えています。



著者授業風景

特別支援学校では、多くの学校看護師が活躍しています

学校看護師の仕事

静岡県内の特別支援学校では、医療的ケア対象の児童生徒が200人ほどいます。そして、80人ほどの学校看護師が特別支援学校での医療的ケアを支えています。

医療的ケアの内容は、たんの吸引、経管栄養、カニューレ管理、酸素吸入、導尿、人工呼吸器管理等です。

学校看護師は、教員に対して医療的ケアに関する講義や演習も実施します。



「吸引しますよ。」

学校看護師と教員が連携

学校看護師は、教員や保護者との日々の情報交換や個別のマニュアルを確認することで、安全に医療的ケアを実施します。

医療的ケアを実施する中で、子どもたちの体調や気持ちの変化、伝えたいことが分かるようになり、適切な医療的ケアにつながります。



「体調はどうか？」

子どもたちの笑顔と成長

医療的ケアにより安定的に登校できるようになり、すっきりした気持ちを笑顔で表したり、食事をシリンジで注入する際に学校看護師の問いかけに声を出して応えたりする様子は、よく見られます。学校看護師の活躍により、学校の医療的ケア体制が整い、子どもたちの学びが支えられています。



会話をしながら食事中（シリンジ注入）

【特別支援教育課】

静岡県教育委員会

しずおか県民カレッジ 参加者募集



こんな方におすすめ

個人の能力
を高めたい新しい人生を
創造したい社会活動に
参加したい

【しずおか県民カレッジとは？】

連携講座を受講し、一定の単位を取得することで、その取得単位に応じて称号が授与できるシステムです。学びの成果を明確にすることで、生涯に渡り学び続ける人を応援します！

【どんな連携講座があるの？】

大学、各種学校、公民館、民間教育事業団体等が実施する様々なジャンルの連携講座があります。

- ・AI時代の情報とメディア（公開講座）
- ・遊びの中のリスクマネジメント（公開講座）
- ・1から始めるInstagram講座（自治体）など

【問い合わせ先】

静岡県総合教育センター内
しずおか県民カレッジ事務局(生涯学習推進班)
TEL: 0537-24-9715
E-mail: kouza@manabi.pref.shizuoka.jp

詳しい説明は
こちらから

【総合教育センター】

不祥事根絶への取組

6月～7月は、不祥事根絶推進月間です！
コンプライアンスの徹底に取り組みましょう！

◆静岡県のR6コンプライアンス推進取組～不祥事ゼロを目指して～

静岡県教育委員会は、「教育に携わる全ての者は、児童生徒の安全を守り、人格の形成に大きな影響を与えるという極めて重要な職責にある」ことを心に刻んで、不祥事ゼロの組織を目指します。

◆3つの重点取組 一緒に、信頼できる学校を作りましょう！

- ◆不祥事防止研修を他人事としないための取組
 - ・「原因別分類」6類型を活用した小グループでの研修を継続
 - ・静岡県の研修資料「信頼にこたえる」を、総合的に研修できる冊子に改訂
- ◆児童生徒が被害者となる不祥事の根絶(主な取組)
 - ・「教育職員等による児童生徒性暴力等の防止等に関する法律」の徹底(教職員向け)
 - ◇性暴力等防止に向け、全教員に対し研修(e-learning)を実施
 - ◇迅速で丁寧な初動を行うため、初動対応マニュアルを作成(児童生徒向け)
 - ◇セクハラアンケートを継続して実施
 - ・指導における体罰・不適切な言動等の防止
 - ◇体罰・不適切な言動根絶のためのガイドライン等をリーフレット等を使って周知
- ◆交通事故・事故の削減
 - ・交通安全意識を高めるための研修(e-learning)を実施

◆子どもたちが輝くように

リーフレットでは、安全安心な学校づくりを目指して、教職員ができる取り組みを例示しています。教職員が、子どもの意見表明等の権利を尊重しながら指導を行うことができるよう、さまざまな場面等を想定しました。不祥事によって、学校への信頼が失われることのないよう、共に歩みましょう。



体罰・不適切な言動を根絶するためのリーフレット

【教育総務課】

組合員を対象とした
メンタルヘルス相談窓口

○教育厚生課……………TEL 054(221)3131
○静岡県教職員互助組合相談センター……………月・水・金曜日(午後1時から5時まで) ☎ 0120(034)054
○公立学校共済組合……………詳しくは右記QRコードをご確認ください ▶▶▶



静岡県教職員 仕事・子育てサポート研修・交流会 ～育児休業の取得・復帰に向けて～

県教育委員会では、令和6年度から新たに、育児休業中の方及び育児休業の取得を検討している方を対象に、静岡県教職員仕事・子育てサポート研修・交流会を開催します。

研修内容	①育児に関する休暇制度等(全体講義):約20分 ②先輩教職員※との交流(グループ別対話):約40分 ※育児休業からの復帰を経験した職員
研修日	令和6年8月19日(月)
方法	Zoom(オンライン)で実施
申込締切	令和6年6月28日(金)



育児休業からの復帰や、取得そのものに不安がある方は、是非ご参加ください。

▼申込フォーム(Googleフォーム)



注1:詳細は各所属に通知済みの実施要領をご覧ください。
注2:申込みの際、交流会で聞きたいこと、お話ししたいことを可能な範囲で入力してください。

【問い合わせ先:教育総務課 勤務条件・監察班】

【教育総務課】TEL 054-221-3144

県内最大級の芸術祭 「ふじのくに芸術祭」! 作品・参加者募集をスタートします!

ふじのくに芸術祭2024の作品・参加者募集をスタートします。
高校生だけが応募できる「高校生短歌・俳句・川柳コンクール」の募集も行います。入賞者には賞状、副賞を贈呈いたします。

昨年は美術展において、最高位である静岡県芸術祭受賞者の4名のうち2名が高校生でした。部活動の発表の場として、あるいは夏休み課題発表の場としてぜひご活用ください!

教職員の皆様からの応募もお待ちしております!

分野	作品応募期間
美術	6月15日(土)～8月6日(火)
書道	6月15日(土)～8月23日(金)
文芸コンクール	6月15日(土)～9月2日(月)
高校生短歌・俳句・川柳コンクール	6月15日(土)～9月13日(金)
写真	6月15日(土)～9月13日(金)
合唱コンクール	9月30日(月)
演劇コンクール	公演日の50日前まで(12月8日(日)までの公演対象)

応募方法 下記HPに募集要項を添付。
<https://www.pref.shizuoka.jp/kankosports/bunkageijutsu/bunkaevent/1061258/index.html>
募集要項の送付を希望される方はお気軽にご連絡ください。

問い合わせ ふじのくに芸術祭事務局(静岡県文化政策課/静岡県文化協会)
○Tel:054-221-3109 ○Mail:arts@pref.shizuoka.lg.jp

HP
(WEBサイト)



ふじのくに芸術祭2024

【文化政策課】TEL 054-221-3109

教員のための博物館の日 in ふじのくに茶の都ミュージアム 参加者募集

「教員のための博物館の日」は、教員の皆さんに博物館に親しみを持ってもらい、博物館にある学習資源を知ってもらうために全国の博物館で実施されている事業です。ふじのくに茶の都ミュージアムでは、学校向けのプログラムやお茶を楽しむプログラムなどを特別に体験していただけます。

開催日	8月8日(木)	参加費	無料(交通費支給)
対象	静岡県内の教員及び学校関係者(定員20人)		
申込み	ふじのくに電子申請サービスからお申込みください。(定員になり次第締め切ります。)		

▼HP



▼電子申請



ふじのくに茶の都ミュージアム
島田市金谷富士見町3053-2
TEL 0547-46-5588



【ふじのくに茶の都ミュージアム】

不登校に関する各種情報はここから! ～公立小中学校向け～ 不登校支援ポータルサイト

OPEN!

不登校に関する様々な情報を得るための
入口となるWEBサイトです

静岡県

不登校支援ポータルサイト

不登校児童生徒、保護者、学校のためのサポート

児童生徒



学校で困ったことがある
学校の先生以外に相談したい

保護者



子どもが不登校になったけど、
何をすればよいかわからない、
学校以外に居場所はあるの?

学校



スクールカウンセラーをより
効果的に活用するには
どうしたらいいの?

不登校支援の一つとして、児童生徒、保護者、学校及び関係機関に向けて、
その方々が必要とするさまざまな情報にアクセスできるサイト(入口)を県
義務教育課のトップページ上に作成しました。ぜひご活用ください。

静岡県 不登校ポータルサイト

検索

<https://www.pref.shizuoka.jp/kodomokyoiku/kyoiku/futokoshien/>

【義務教育課】



近未来を支える
高校生のチカラ

第6回 高校生が競う

Energy Pitch!

2050年の現役世代が将来を構想する
社会の課題解決with Energy プラン・コンテスト

応募期限 2024.6.30 Sun 5:00PM

Entry
受付中!

第6回
高校生が競うEnergy Pitch!
2050年の現役世代が将来を構想する
社会の課題解決with Energy プラン・コンテスト

本年度の課題

人口減少・少子高齢化が社会や
地域に与える影響とエネルギーのあり方

参加形態

1.会場審査部門 2.動画審査部門

※会場審査部門の応募が多数の場合は書類審査による選抜を実施します。

2050年に日本で想定されるエネルギーや環境、人口減少などの
諸問題について、その時代を担う高校生に考えてもらい、解決策に
ついて提言、発表してもらいます。
有識者との対話により、主体的に知識を習得・整理し、チームで発表する
過程を通じて、未来を構想し考え抜く力を磨けるプログラムです。



高校生が競うEnergy Pitch!の
エントリー・詳細はこちら

<https://energypitch-s.jp/>

事務局/電気新聞(一般社団法人日本電気協会新聞部)メディア事業局内 第6回高校生が競うEnergy Pitch!事務局
100-0006 東京都千代田区有楽町1-7-1 有楽町電気ビル北館3階
電話:03-3211-1555 FAX:03-3212-6155 E-mail:energypitch@denkishimbun.com
主催/電気新聞(一般社団法人日本電気協会新聞部) 共催/静岡新聞社・静岡放送
特別協力/静岡ガス株式会社 鈴木商事株式会社 中部電力株式会社
後援/静岡県教育委員会

広告

Eジャーナルしずおかは、市町教委等のご協力により、これまで静岡県の全ての公立学校等教職員一人一人に配布していましたが、同等の情報発信を行う新たなウェブサイトの開設に伴い、令和6年4月号(第270号)から発行部数を15,000部、公立学校1校あたり10部程度の配布としております。今後、令和6年10月を目途に紙での発行を終了し、新ウェブサイトへ完全に移行する予定です。
*次回(第273号)の発行は、令和6年7月5日(金曜日)の予定です。

新ウェブサイト「Eジャーナルしずおか+」

